

賛美イエス！

私の叙階同期であるチェ神父様と共にこちら日本の丹波教会でミサを捧げるようになり本当にうれしく思います。ですが、下手な日本語でミサのお説教をすることになりとても心配です。しかし、神様が私と共にいて下さると信じ、今日の説教を始めます。

今日、私たちは罪を犯した人間と、それを許して下さるイエス様に会うようになります。まず、第 1 朗読を見れば罪のゆるしを受けるためには自分が罪を犯したことを認めることが大切だということが書いてあります。ダビデはある女性の夫を殺して、その女性を自分の妻にするという大きな罪を犯しました。しかし、彼は自分の罪を人々が知らないという理由で反省しなかったのです。ナタン予言者が彼の罪を断罪して、その時初めて「私は主に罪を犯した」と自分の罪を後悔して神様にゆるしを求めます。つまり罪がある所にゆるしがあるのです。言い換えれば自分が罪を犯したと告白する人にゆるしが与えられるのです。

自分が罪人なのかも、そしてどんな罪を犯したかもしらない人は、自分の罪を悔いることもせず、またゆるしを求めることもないため、その人にゆるしが与えられることができないし、また罪がないと考える彼を許すこともできないのです。

今日の福音は、ある女性の美しくて感動的な罪の悔みが紹介されています。彼女は自分が罪人であることを自らよく知っています。そして、自分が訪ねたところがハリサイ派の家であることも、数多くの審判者たちが自分をながめているにもかかわらず、ただ自分の気持ちを深く知って、許してくれるイエス様だけをながめます。そして香油の入った石膏の壺を持ってきて、後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエス様の足に接吻して香油を塗るのです。

これよりさらに切実な気持ちの表現が、これよりもっと美しい改心の姿がありましょうか？それでもこの姿をながめたハリサイたちの心の中には、ただ罪人がいるだけです。しかし、神様の心の中には、イエス様の目の前には罪人でなく、改心者がいます。罪に留まっている者でなく、罪を悔いて涙で自分の足を濡らす愛の神様の娘がいるのです。そしてイエス様は、暖かい慰めの言葉で彼女の罪を許して下さいます。

神様の国は罪がなく、誤りがなく、恥がない国ではありません。罪を悔いて、涙を流して赦しを求めたら、赦してもらえる国です。

「今日の福音の中では、自分が罪人だと思い、涙を流しながら、イエス様にゆるしを求める女性と、自分は義人だから罪なんか犯さないと思うハリサイ派の人が登場します。私たちは、人間なので、誰でも罪を犯しながら生きて行きます。もちろん、罪を犯さない

ように気をつけて、生きることが大切ですが、仕方なく罪を犯した場合、私たちは、どのような姿をとるべきでしょうか。自分が罪を犯したということを悟り、神様にゆるしを求める姿をとった方がいいのではありませんか。」

第 2 朗読で、パウロ使徒は、今は私でなくキリストが私の中におられることだと話しました。私たちがキリストの心を抱いて生きるとき私たちは涙で私たちの罪を悔い改めることができ、切実な心で神様の前に出て行くことができます。また、キリストの心と目で人々を見る時、改心しようと努力する彼らに会うようになります。

赦しを求める人生、そして許し合う人生を、いつも神様は私たちに願っておられます。

しばらく黙想しましょう。